

石狩湾新港ウインドファーム(仮称)事業に係る環境影響評価準備書に対する意見・質問及び回答

質問者	質問・意見の概要	事業者回答
乗木会長	運転年数は何年を見込んでいるか。	20年間を見込んでいる。これは、固定価格買取制度に係る法の期間および、機械の耐用年数も20年となっている。
乗木会長	故障した場合も20年間使用するか。また、4基とも同じ会社のものを使用するか。	メンテナンスを行いながら、20年間継続させる。基本的には同じ会社のものを使用する。
乗木会長	機種を選択する上で、騒音のレベルなどが違うと思うが、経済性を優先するのか、それとも低周波を最優先しているのか、どの観点を重視して選択しているのか。	環境影響評価に用いた値は、メーカー入手したデータを行い、候補機種から最も値が大きいものを用いて予測評価を行っており、機種自体はまだ最終決定していない。
酒井委員	今後、風車の設置位置が変わる可能性があるか。	準備書を提出する時点では設置位置を固めなければならないため、確定したものとしてお示ししている。
酒井委員	敷地の取得は済んでいるか。	内諾レベルであるが、地権者の了承のもと事業を進めている。
酒井委員	使用する風車は国産、外国産どちらか。	決定はしていない。両方視野に入れながら検討している。
長谷部委員	元々の計画30,000kwから、北電との連携規模が10,500kwになったため、調査敷地内でこの規模をどのように確保するかという条件のもとで、この位置が決めたのか。 30,000kwが可能であったなら、その規模に合わせて多くの風車が立ったということか。	連携規模の枠に応じ、容量が大きかった場合は、他の場所を含めて検討したと考えるが、今回は、2年前の終わりくらいの段階で枠が決まったため、4基で計画を進めてきた。 また、配置を決める上では、方法書でいただいた意見等を踏まえ決定した。
長谷部委員	万が一、事業が途中で挫折した場合、撤去等は誰が行うか。	基本的に親会社を含めて責任を持って対処させていただく。
長谷川(理)委員	方法書では風車の位置が決まっていなかったが、現地調査の終了後に決めたのか。 最終的な風車位置を踏まえての調査は実施していないということか。風車位置に即した調査ができていないのではないか。例えば、コウモリ調査が区域内で行われていない、ラインセンサルートが区域の片側でしか設定されていない。	【資料1-添付①】 調査地点、調査範囲の考え方と風力発電機配置検討の経緯及びコウモリ・鳥類の調査地点設定の考え方については別紙のとおり。

質問者	質問・意見の概要	事業者回答
長谷川(理)委員	<p>鳥類の衝突確率の算定について、計算区域が海上まで含んだ範囲になっているが、これでは過小評価になってしまうのではないか。</p> <p>バードストライクの予測について、調査日数の設定はどのように行ったのか。各日とも8名で調査を行っているのか。これも場合によっては過小評価になってしまう。</p>	<p>【資料1-添付②】</p> <p>海上のデータを含まないパターンでの衝突確率を算出しました。結果及び調査日数の設定状況は別紙のとおりです。</p> <p>なお、衝突確率の算出にあたり、準備書において数値に誤りがあり、下記のとおり修正し再計算しました。</p> <p>(誤) マガン(116)、マガン属の一種(378)</p> <p>(正) マガン(378)、マガン属の一種(116)</p>
菅澤委員、高橋委員	<p>超低周波音の事業による寄与レベルも記載すべき。</p> <p>G特性は1～80Hzを含んでおり、準備書にある整理に合致しない。その意味でも1～20Hzの1/3OCB毎の予測結果を示す必要がある。風車のパワーレベルについて、周波数帯ごとにもっと細かいデータを提示してほしい。</p> <p>騒音、低周波音の保全対象として、風車の影の項にある保全対象に「店」とあるが、どのような店か。静穏な状況の店舗なら保全対象となるのではないか。</p>	<p>【資料1-添付③】</p> <p>超低周波音の寄与レベル及び風車のパワーレベルの周波数帯ごとのデータについては別紙のとおり。</p> <p>店舗については、コンビニエンスストア1店、資材販売店3店、朝市等の不定期店舗等3店を確認しています。いずれの店舗も国道や港湾内の道路沿いに位置しており、いずれの店舗も特に静穏な状況の施設ではないと考えています。</p>